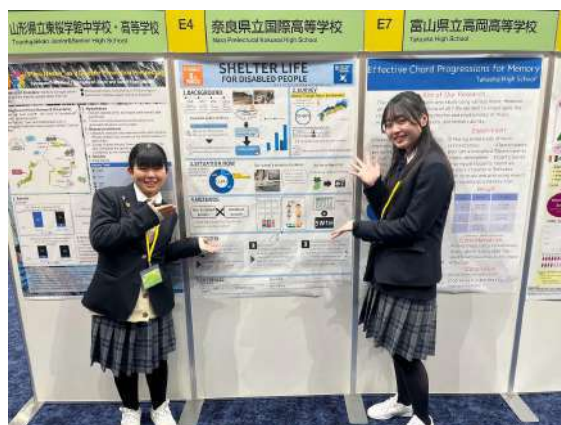
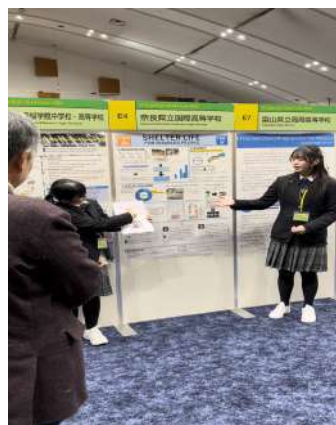


4.1.14 成果の発表（生徒）

a WWL高校生フォーラム

概要：12月15日、文部科学省・筑波大学主催の全国高校生フォーラムに参加した。昨年度に続き、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた。本校からは「公正で公平な未来をつくる」ゼミの2年生2名が参加した。「災害発生時に誰もが安全に避難するするために私たちにできることは何か」というテーマで主に障がい者が指定避難所から福祉避難所へ移動するまでの期間を安心して過ごせるための取り組みについて英語でポスターセッションを行った。



日本語要約

近年、地震や豪雨など大きな自然災害が日本国内で頻繁に起こっている。1月に発生した能登半島地震では、特に障害をもつ人の避難所生活における不自由さが明るみになり、今後高い確率で発生するであろう南海トラフ巨大地震への対策も急務となっている。この発表では奈良県内の特別支援学校やざっさいに避難所の運営に関わっている人への調査をし、誰もが安全に過ごせる避難所づくりについて考察・実践したことを報告する。

英語要約

Recently, many natural disasters are happening in Japan. For instance, the earthquakes in Noto, Ishikawa Prefecture occurred in January, 2024. Afterwards, the successful evacuation of people with disabilities was emphasized. Also, we must take measures to prepare for the Nankai Trough Megaquake that will occur in the future. In this presentation, we will investigate support in school evacuation centers and people who are actually involved in the operation of shelters, and report on the practice of creating shelters where everyone can evacuate safely.

b 名古屋国際高校 WWL高校生国際会議

12月23日（月）、名古屋国際高校で行われたWWL高校生国際会議に本校から10名の生徒が参加した。「カンボジアでの孤児院ボランティアツアー」という題材で、「孤児院ビジネスと分かった上でツアーに参加するべきかどうか」という正解のない問いに対してグループで意見を出し、全体で共有をした。また、生徒だけで話し合うのではなく、企業の方が1人ずつ各グループに入ってくださり、経営者や現地に住んでいる方の目線からの意見を聞くことができた。



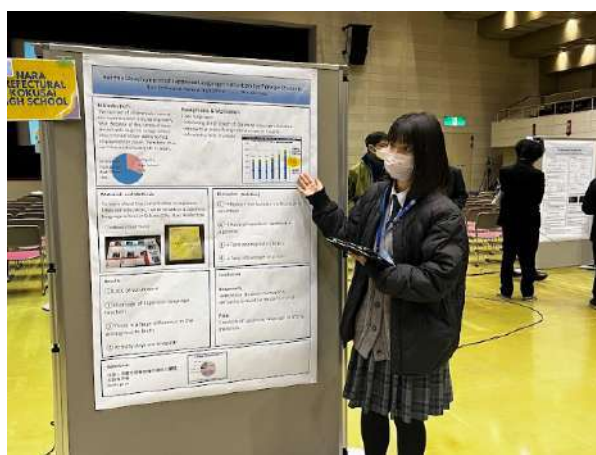
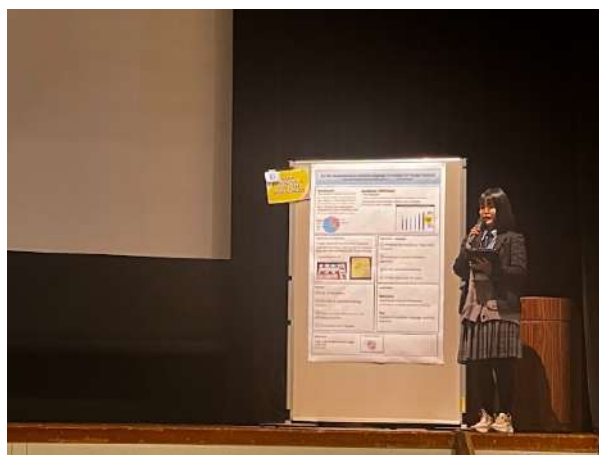
c WWL滋賀県高校生国際会議

2025年1月17日に開催されたWWL滋賀県国際高校生会議は、滋賀県米原市の滋賀県文化産業会館で行われた。発表は主に英語で行われ、滋賀県の日本語教師たちによって発表スキル、英語の発音、ポスターの構成などが評価された。25校の参加校の中には、滋賀県外からの4校あった。発表の多くは科学研究に関するもので、衣服の染料の劣化に関するものから、花屋で販売される花の寿命を延ばすための人工茎の作成方法までさまざまなテーマが取り上げられた。

2年生の生徒が奈良県の外国人学生に対する日本の教育の現状について発表した。彼女は、奈良県桜井市の学校での経験を基に、日本の外国人学生向け教育を改善するための提案をした。その提案は、1. ボランティアの負担を軽減する、2. すべての教師が日本語の資格を持つ、3. 適切な休憩を取る、4. オンライン教材と機能を活用する、というものだった。また、彼女は日本語を学ぶ学生たちに楽しく積極的な学習を促すフラッシュカードを作成するという将来の目標にも触れた。

発表終了後、優れたプレゼンターを讃えるための表彰式が行われ、彼女はその優れた発表に対して認定証を授与された。さらに、彼女はモデルプレゼンターとしてステージに呼ばれ、全員の前で発表を行った。ここで彼女は、研究内容が十分で理解しやすいことに加え、非言語コミュニケーション、正しいイントネーションと発音、スピーチの速さなど、プレゼンテーションのスキルがいかに重要であることを示した。

私たちの国際学校では、特に英語の授業においてアクティブ・ラーニングの方法を取り入れることに力を入れている。プレゼンテーションやディベートの練習から、学生たちが世界の問題に取り組み、より良く平和な世界のための解決策を考える機会を提供している。



d. 英語弁論大会など

1. 第75回奈良県高等学校英語弁論大会・第6回英語暗唱大会

第75回奈良県高等学校英語弁論大会・第6回英語暗唱大会に本校のESS部員が参加した。弁論大会では、“The Path to Accepting Myself”という題で、自身のバックグラウンドと経験から感じたことや学んだことを発表した。また、暗唱大会では、課題英文の1つである、“Virginia’s Letter to the New York Sun in 1897”を暗唱した。また、弁論大会、暗唱大会ともに司会を本校の生徒が務めた。

1. 日程：令和6年11月2日（土）

2. 場所：奈良県立高取国際高校

3. 参加生徒：英語弁論大会 ESS部員 2年生1名
英語暗唱大会 ESS部員 1年生2名

4. 結果：弁論大会、暗唱大会ともに入賞はしなかったが、練習の成果を十分に発揮できた大会であった。どの参加生徒も、このような大会に出場することは初めてであり、大会終了後は悔しさもあったようだが、人前で堂々と英語で発表ができたことに嬉しさと自信を持ってくれた。



2. 第29回イングリッシュ・フェスティバル

県内生徒がより多くの英語に触れる場として毎年開催されている、イングリッシュ・フェスティバルに本校のESS部員が参加した。今年度は、中学生からもディベートの見学を希望する申し出があり、大会主催者も、上級生の姿が中学生の英語学習に良い影響になればと、快く受け入れてくれた。

また、イングリッシュ・フェスティバルの後に開催された、留学生による日本語体験発表会では、ディベート大会参加者2名の生徒が発表会の司会を務め、発表会の運営のサポートをおこなった。

1. 日程：令和6年12月14日（土）
2. 場所：奈良県立郡山高等学校
3. 参加者：ESS部員 1年生2名、2年生1名
中学1年生1名（見学として）
4. 内容：ディベート（第1ラウンド）
ディベート（第2ラウンド）
ESS・英語関係クラブ&ALT交流会
5. 結果：ディベート大会では、優良賞を受賞。ディベートの相手に圧倒されながらも、自分たちの主張を述べる事ができていた。また、見学に来た中学生も高校生がディベートで意見を主張する様子を見て、自分もやってみたいと胸を高鳴らせていた。ESS・英語関係クラブ&ALT交流会では、他校の生徒とグループを組み、英語を使ったゲームを協力しておこなうことで、交流を深めた。英語を使用しながら楽しい時間を過ごすことができた。



e 韓国語スピーチコンテスト

2024年11月16日（土）に奈良県韓国人会館で奈良韓国教育院と在日大韓民国民団奈良県地方本部の主催による「第25回奈良県韓国語スピーチ大会」が行われ、3年生2人、2年生4人の合計6名が参加した。

3年生の1人が金賞、もう1人が銀賞、2年生は4人とも銅賞（参加賞）であった。2年生は活躍する3年生を目の当たりにし、「必ず来年も出場して、もっと良い賞を受けたい。」と意気込んだ。



f 中国語スピーチコンテスト

1 世界中高生中国語スピーチコンテスト（7月）

参加人数： 朗読部門 2人（2年生2人）
暗唱部門 3人（3年生3人）
成績： 暗唱部門 第三位



2 第42回全日本中国語スピーチコンテスト

日時：2024年10月27日（日）

参加人数： 朗読部門 5人（2年生4人；3年生1人）
スピーチ部門 1人（2年生1人）

場所： 奈良市中部公民館（奈良市上三条町23-4）

内容：

- 1) ~10:00 集合
- 2) 10:30~11:30 個人練習
- 3) 11:30~12:30 グループ練習
- 4) 13:30~16:30
前半 スピーチコンテストに参加；
後半 成績の発表
- 5) 16:30~17:00 写真撮影

成績： スピーチ部門 中学・高校生部 第一位（全国大会への推薦）
朗読部門 中学・高校生部 第二位、奨励賞

感想と改善点：みんなの練習のおかげで、良い成績を収めました、中国語の声調のトレーニングはまだ強化する必要があります。



3 第28回全国高校生中国語スピーチコンテスト

日時：2024年12月14日（土）

参加人数： 初級部門（朗読） 2人 （2年生2人）

場所： 京都外国語大学 7号館4階 741教室

内容：

- 1) ~10:00 京都駅で集合
- 2) 10:00~11:00 京都外国語大学へ行く
- 3) 11:30~12:30 グループ練習
- 4) 13:30~15:30
前半 スピーチコンテストに参加；
後半 成績の発表
- 5) 15:30~16:00 写真撮影



成績： 高等学校中国語教育研究会賞

感想と改善点：一人が集合場所を間違えてしまい、ギリギリで会場に到着しました。次回は、当日の朝一番に確認の連絡をするようにします。

g スペイン語（スピーチコンテスト、レシテーションコンテスト）

スペイン語では、日々の学習の成果を発表する場として、代表生徒が一昨年度より清泉女子大学高校生スペイン語スピーチコンテストに出場している。これは毎年3月末に行われる全国規模の大会で、高校生が自分でテーマを設定し、4分間でスペイン語で想いを発表する大会である。1次審査と2次審査があり、1次審査は発表原稿による書類審査で、1次審査を通過した場合、清泉女子大学のキャンパスで行われる2次審査に出場することができる。

令和6年3月には、2年生の生徒が2名参加し、1名が最優秀賞、もう1名が優秀賞を受賞した。今年度も3月末に開催される予定で、本校からも参加に意欲をもっている生徒が多くいる。



2024年12月に行われた天理大学主催第2回関西高校生スペイン語レシテーションコンテストでは、今年度高校3年生の4名が出場しそのうち1名が「朗読の部」で特別賞、1名が「暗唱の部」で優秀賞を受賞した。事前にスペイン語圏の有名な詩を課題文として練習し、当日はそれを暗唱し、スペイン語の発音やリズム、イントネーションなど表現力を競う大会である。

英語以外の外国語を学ぶ高校生にとって、ひとつの課題となるのは、その言語を授業以外で触れる機会に乏しく、学習するモチベーションが低下したり、目的意識が持てなかったりすることである。本校が取り組んでいる海外の学校とのオンラインや対面での交流、このようなスピーチコンテストなど普段の学習の成果を発揮できる場を積極的に活用し、スペイン語をもっと身近に感じてほしいと思っている。



h フランス語スケッチ・コンクール、暗唱コンクール

今年度は、校外で開催されている2つのコンクールに参加した。

1 第21回西日本高校生フランス語スケッチ・コンクール

主催：在日フランス大使館、関西日仏学館、日本フランス語教育学会

日時：2024年11月23日（土）13:00～

会場：関西日仏学館一京都

「スケッチ」とは、寸劇のことで、このコンクールでは2人1組のペアがフランス語の課題劇を演じる。本校からは2年生1組が出場した。

大阪・兵庫・奈良から全7校合計11組が出場し、本校生徒も練習の成果を発揮し最後まで演じ切ったが、残念ながら受賞には至らなかった。



本校生徒の発表の様子

2 第16回西日本高校生フランス語暗唱コンクール

主催：アサンプション国際中学校高等学校、関西日仏学館、日本フランス語教育学会

日時：2025年2月15日（土）13:30～

会場：アサンプション国際中学校高等学校

フランス語の課題文を暗唱し、披露するコンクールである。出場者は5つの課題文から1つを選択し、暗唱した。コンクールには大阪府、兵庫県、奈良県の10校より計24名が出場した。本校からは2年生3名が出場した。このうち本校生徒1名が「アサンプション賞（特別賞）」を受賞した。



本校の発表者3名

3 最後に

昨年度に引き続き、上記2つのコンクールに出場することができた。今後は上位入賞を視野に入れながら、指導に取り組んでいきたい。コンクールの出場にあたって、本校非常勤講師エヴェイエ・ミカエル先生が、毎週水曜日の放課後、長時間にわたって指導をしてくださった。フランス語学習歴1年未満の生徒に対し、本番で堂々と発表ができるレベルになるまでご指導いただいた。ここに感謝申し上げます。

i 留学体験発表・校内発表会

今年、3人の交換留学生が中学生・高校生に対して自分の留学経験について発表した。このイベントは、国際中学校・高等学校の生徒たちに留学経験を伝え、外国から見た日本についての新しい視点を提供することを目的とした。発表を行った交換留学生は自分の国と日本での生活経験について10分間のプレゼンテーションを行った。イタリアの留学生は、初めて日本食を食べたことや、留学を通して、かつては新しいことに挑戦することを恐れていた内向的な自分が、あらゆる新しいことに挑戦するようになったという変化について話した。ミャンマーの留学生はミャンマーでの生活や、福岡や奈良での経験について話した。ホンジュラスの留学生はホンジュラスと日本の生活の違いについて紹介した。

3人の留学生は、全員が日本に来てからまだ1年未満であるにもかかわらず、日本語で自分の経験を発表した。発表後、参加した生徒たちは各国に関する質問をしたり、交換留学生たちの経験についてディスカッションを行った。生徒たちは、交換留学生が日本に来た際に直面するさまざまな壁について学んだ。例えば、多くの交換留学生にとって日本への留学は初めての外国での生活であり、文化的な壁に加えて言語の習得や、異なる言語で友達を作ることが大きな課題となることが分かった。この経験を通じて、国際中学校・高等学校の生徒たちは、交換留学生たちの経験や困難を理解するとともに、外国での生活に伴う苦労を学んだ。また、海外留学を希望する多くの生徒にとって、このイベントは自分たちが日本を離れる際に直面するかもしれない困難をよりよく理解する機会にもなった。



4.1.15 成果の報告（教員）

a 高校3年生グローバル探究公開授業

高校3年生は、2年間にわたるゼミ別探究活動の集大成として「探究発表会（グローバル探究公開授業）」を実施した。事前に各ゼミ内で発表会を実施の上ゼミ代表を選出し、下級生および保護者、外部の教員や関係者に対して発表した。

日時：2024年7月4日（木）1、2、3時間目

場所：中学2年、高校1・2・3年生教室+特別教室

対象生徒：中学2年、高校1・2・3年生

使用言語：日本語

【発表について】

各ゼミで選出された3ファミリーは、5月15日実施の「たてにつながる探究交流会」の発表、それに対するフィードバックを踏まえて探究をさらに深化させ、ブラッシュアップした内容を発表した。各セッション（発表時間10分、質疑応答10分、振り返りシート記入10分）とし、3セッション実施することにより参加者は3つの発表を聴講し議論に参加することができた。参加者は、発表テーマ一覧が記載されている配付資料を参照し、興味関心に従って発表を選んだ。発表、質疑応答中に教室に出入りすることを避けるため、各セッション中は1つの教室に留まるように指示した。振り返りシートで書かれたコメントなどは個人情報に配慮した上で希望した発表者に共有した。

【ファシリテーターについて】

会の進行を行うファシリテーターは、事前のアンケートで希望した生徒を中心に、各ゼミから3組選出した。各教室に配置された2名程度のファシリテーターが当日の進行、意見集約等を行った。

【今回の成果と今後の課題】

下級生だけでなく、大人からの質問は今までに聞かれたことのないようなものがあり、発表者に新たな視点を与えた。また、質疑応答に備えるために文献調査やデータ収集に注力することで自らのテーマに関する理解をさらに進めることができた。他方、下級生からの質問は質にばらつきがあり、的確な質問をする力を育む授業計画の必要性を痛感した。また、ファシリテーターに頼るだけでなく、議論に自ら貢献するような主体性をさらに生徒の中に醸成し、実りのある発表会が実施できる本校の文化を形成していきたい。



【外部参加者の感想】

- 他学年との交流の機会にもなっており、上級生にとっても下級生にとっても学びのある時間で、すばらしいと思った。
- 学校全体、また外部の参加者も巻き込んで公開授業をしているということに驚きました。
- 発表する高校生もスライドの作り込みから発表時の態度まで素晴らしく、見学していた生徒からもたくさん質問が出ていて、とても良い授業だと感じた。

b 中学校グローバル探究基礎公開授業

12月9日に実施した、中学1年生と中学2年生の「たてにつながる交流会」を公開授業とした。

【目的】

中学2年生の探究基礎トライアルゼミの成果を発表し、ポスター形式でのプレゼンテーションを実施する。中学1年生が先輩の活動を学び、議論に参加することで探究活動への関心を高める。保護者や県内教育関係者に本校の教育活動を周知する。

【外部からの参加者】

中学1～2年生の保護者：30名程度

県内教職員：6名

大学教員：1名

【外部からの参加者の感想】

- これまでは学習に対する意欲があまり見られなかったが、探究活動に取り組み始めてからは、興味のある分野に対して積極的に学ぶ姿勢が見られるようになった。さらに、探究を通じて将来の進路についても考えるようになっていく。
- 国際バカロレアの取り組みに興味を持っている。教員がどのように指導に当たっているのか、生徒がどのような学びをしているのかなど、もっと知りたい。
- 高校との接続に興味がある。中学の学びがどのように高校の学びと関連しているのか。中学では、高校で行っている探究活動を先取りしているとのことだが、今後どのようなt年会になるのか。ぜひこのような公開の場を持ってほしい。
- 世界にある課題を自分ごととして捉えて探究しているように感じた。生徒にはもっと悩んでモヤモヤとして欲しい、教員もともに悩んであげてほしい。その過程で生徒たちが成長していく。この中から、世界を変えてくれる人材が輩出されることを願っている。

4.2 共同実施校の取り組み

4.2.1 法隆寺国際高等学校

①「創生」（総合的な探究の時間）

（対象：普通科、総合英語科）

総合的な探究の時間「創生」において、第1学年生徒は、郷土の魅力と課題について考え、仮説を立て情報収集をし、より良い解決策を探究してクラス内でグループ発表を行った。第2学年生徒は、インタビューやアンケートなどの活動も取り入れ、さらに内容を深化させた。4月に、高大連携事業で阪南大学から講師の先生をお招きし、オリエンテーションを行い、探究活動の課題の設定の仕方や研究の進め方、探究活動の意義についてお話しいただいた。SDGsの観点から、通学路や学校生活に関わることをテーマとして設定し、グループで改善策について探究した。10月にドイツの姉妹校生を迎えるにあたり、万国旗で廊下を装飾し、歓迎の気持ちを表したグループもあった。第2学年の代表2グループが探究活動の成果発表会「ユネスコフォーラム」において発表をした。

本校はユネスコスクールであり、その取組として総合的な探究の時間以外の教科の中でも探究活動を行い、その成果発表の場として「ユネスコフォーラム」を12月に開催した。

加えて、総合英語科では、「総合英語」の授業でESDの理念に則り探究活動を行った。第1学年生徒は四天王寺大学の教授と学生に来ていただき、地域に関する取組として、法隆寺や奈良県の紹介を英語でできるようご指導いただき、ドイツの姉妹校生に向けて発表を行った。第2学年生徒は英語の教科書で学んだ題材について“Actions for a better world”と題して、阪南大学の教授や学生からのご指導をいただきSDGsに関わるテーマを設定し、改善策を探究しグループ発表を行った。第2学年の代表2グループが、前述のユネスコフォーラムで食品ロスについての改善策を提案した。



《ユネスコフォーラムでの歴史文化科、総合英語科の発表》

②「課題研究入門」「課題研究」

（対象：歴史文化科）

歴史文化科では、第1学年生徒が「調査研究入門」で、研究の進め方など基本的なことを学び、第2、3学年生徒は、それぞれ「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」という授業において、研究テーマを設定し、必要に応じてフィールドワークを行い、奈良文化財研究所等外部の専門家の先生方からご指導をいただきながらグループ研究を行った。さらに、第3学年生徒は、校内研究発表会を経て代表グループを3つ選出し「ユネスコフォーラム」にて、探究の成果を発表した。

4.2.2 高取国際高等学校

① 1年生（奈良タイム）

総合的な探究の時間の一環として、「奈良」について調査し、自分の考えをまとめ、表現するための手法について学ぶ機会とした。1学期はテーマを設定するための手法や調査の方法について学んだ。そのことを踏まえて、自分の住む地域の魅力についてまとめ、発表を行った。2学期以降はグループに分かれ、「奈良県でよりよく暮らすためにはどうすればよいか」をテーマとし、グループごとに自分が興味・関心をもった分野について調べ学習を行い、クラス内で発表した。観光地としての奈良に不足しているものや制服のジェンダーレス化など、身近な物事をはじめとしてテーマは多岐に渡った。また、各クラスで最も上手く発表できたグループを選抜し、年度の最後には全体発表会を行った。

② 2年生

(f) あすか学（対象：国際英語科・国際コミュニケーション科）

あすか地域における歴史と産業について、明日香村・高取町および高取町内の企業と計画を立て、学習を進めた。

1学期は主に明日香村内の世界遺産構成資産を中心に明日香村職員の案内のもと、見学を行い、レポート作成に取り組んだ。

2学期には、学んでいる内容を生かして明日香小学校の6年生と明日香村内の世界遺産構成資産にて交流活動を行った。また、高取町の産業を学習することを目的として、薬の原料となるキハダの植え付け体験や、皮むき体験も高取町および（有）ポニーの里の協力のもと実施した。

3学期は飛鳥ハーフマラソンのコース上に設置する遺跡案内看板やランナー向けの応援看板を作成した。その際、学んだ内容を盛り込み、明日香村の世界遺産構成資産や特産品について理解してもらえる内容になるように工夫を凝らした。

(i) 総合的な探究の時間（対象：全学科）

SDGsで掲げられている目標に向き合った。SDGsで示されている17の持続可能な開発目標の中でも、「食」に関する課題に興味をもった生徒が多く、1学期には食品ロスについてクラス全体で講義形式による学習を展開した。夏期休業中には各自が各家庭における食品ロスの実態や、社会全体の実情を調べレポートにまとめた。2学期からは設定テーマごとに編成したグループに分かれ、あるグループは飢餓問題について、別のグループは貧困問題について、それぞれ学びを深める時間をもった。学びを通して、ゴミ問題にまで問題意識を広げる生徒もいた。グループでの話し合いを通じて、自分たちなりの解決方法を考え出そうとする姿が見られた。また英語科の生徒たちは、発表スライドを英語で作成し、英語で発表するなどして日頃の学習と関連付けながら発表した。



③ 3年生（総合的な探究の時間）

対象：全学科

内容が進路に関するものであったので、ある程度自分事として、取り組むことができていたように感じるが、クラスの中で目標とする進路が、大学進学、短大進学、専門学校進学、就職と多岐にわたり、クラス全体で取り組むことに難しさを感じた。

1学期は、履歴書（近畿統一応募用紙）の書き方や意義について学び、自己アピール文（自己推薦書）の作成に取り組んだ。

2学期は、主に面接を練習するなかで「高校生として答えなくてよい質問」について考え、どう回答するのが適切なのか意見を出し合った。面接練習を通して、自分の希望する分野についてより詳しく探究する必要性を感じてくれた。

4.3 探究プラットフォームの構築

(1) 授業公開、研究協議

- ・「グローバル探究」公開授業
日時：令和7年7月4日（木）
場所：奈良県立国際高等学校
内容：公開授業（6つのゼミにおいて3グループずつ探究発表）
研究協議（「グローバル探究」の教育内容について等）
- ・「グローバル探究基礎」公開授業
日時：令和6年12月9日（月）
場所：奈良県立国際中学校
内容：公開授業（探究活動についてのポスター発表、ディスカッション）
研究協議（「グローバル探究基礎」の教育内容について、中高接続について等）
- ・「総合的な探究の時間・奈良TIME」学習発表会
日時：令和7年2月6日（木）
場所：奈良県立教育研究所
内容：探究活動の成果発表、生徒・教員別交流会

拠点校における授業公開や研究協議には県内外から多くの教員に参加していただいた。生徒の探究活動の進め方、異学年との協働、評価のあり方などについて、情報交換や意見交換を行った。

(2) 情報共有、情報交換

事業関係校の担当者が参加するGoogle Classroomにおいて、本事業に関する案内や連絡、また、地域ALネットワークで共有されている各種情報を周知する場として活用している。現在、各校での探究活動の取組事例を共有する場にすべく、事例の収集を行っているところである。次年度からは、普段の授業において活用できる情報提供の場としても活用していく。

4.4 グローバル教育の推進

本事業をきっかけに県内でのグローバル教育が一層進むよう、事業協働機関としてJICA関西に加わっていただいた。関係校各校に向けて、あるいは、県全体に対してどのような取組が可能か打合せを行い、各校での探究活動や異文化理解、グローバル教育の一助とするために提供できるプログラムを周知した。

次年度は、関係校合同で、あるいは県内各校の生徒、教員を対象にした、イベントや研修の開催を検討しており、それに向けて今後具体的な打合せを行う予定である。

5. アウトバウンドの拡大

5.1 拠点校スタディツアー

【目的】

「グローバル探究」の一環として、高校2年生次に全員が参加し、発展著しいアジア諸国でフィールドワークを行い、地球規模の課題について協議したり、大学や施設などを訪問したりして、本校生徒に探究力、創造力、協働力、寛容さ、挑戦力、キャリアデザイン力を身につけさせることを目的とする。また、様々な文化や人種が混ざり合うアジア諸国での研修を通して、異文化や多様性について実感し、確固たるグローバル感覚や思考を身につけることで、アジアや世界を牽引するグローバル人材として活躍するための資質を養うことを目的とする。

【経緯】

海外へのスタディツアーは今年度が初めてであったため、昨年度から連携機関と相談を重ねながら研修内容を決めていった。まず、以前から本校と交流があった韓国教育院に依頼をし、昨年の段階で2度の研修会を学年の生徒対象に実施していただいた。韓国教育院の方に加え、日本の大学に留学している韓国の方にも来ていただき、韓国の文化や流行についてなどを話していただき、生徒の関心を高めた。2023年12月19日～21日の3日間にわたり、現地視察および連携機関に協力要請のための訪問を行った。JTB奈良支店の方にも同行いただき、ロETTE JTBにて、ゼミ別研修の調整における協力をお願いした。本校生徒のゼミテーマに合うような訪問先、研修内容を決める上で、現地の旅行会社スタッフと相談できるようにした。セジョン国際高校では、スタディツアーの目的を伝え、お互いの探究の授業について情報交換をし、スタディツアーにおいてどのような交流を行うのかを確認した。国立国際教育院では、院長と話す中で、施設内にある留学生用の寮の利用の許可をいただくなど、関係をふかめることができた。延世大学ではキャンパスツアーだけでなく、探究テーマに関連する講義をしていただけないかとお願いをし、環境に関する教授が講義をしていただけるようになった。



写真1：国立国際教育院（NIIED）

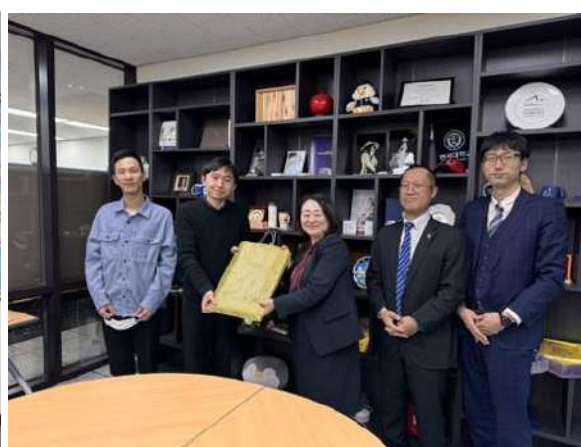


写真2：延世大学



写真3：大韓民国セジョン国際高校

今年度になってからはTEAMを用いてオンライン交流を2度行った。その際、事前にテーマを基にしたグループを24つ作り、お互いの生徒を固定メンバーにした。初回は挨拶や自己紹介といった内容とし、2回目はグローバル探究の内容についてのプレゼンテーションとした。メンバーを固定することで、2回目のグローバル探究の内容を理解した状態で、スタディツアーでのディスカッションを行ったため、より深いディスカッションとなった。



写真4：オンライン交流①



写真5：オンライン交流②

【連携機関】

大韓民国セジョン国際高校（MOU締結校）
株式会社JTB奈良支店、およびロッテJTB
韓国教育院
国立国際教育院（NIIED）
延世大学

参加生徒の振り返りアンケート

- 他国の高校に行くのは初めてで韓国の人意見も聞けて、今後のグローバル探究の活動にとっても役立つことができると感じました。
- セジョン高校との交流で自分の発表をしたほか、韓国の高校生の生活を知り文化の違いを知った。
- 世宗高校の子と今までオンライン上で話していたが、韓国で実際に会うことが出来てとても楽しい交流ができた。韓国の学校は日本の学校とはまた違う雰囲気、部活動、活動が沢山あって新しい経験ができた。
- セジョン高校の人たちと意見交換できた。自分たちになかった視点の意見がでて参考になった。他にも韓国のいろんなことを教えてもらえて勉強になった
- 世宗高校との交流を通して、韓国語が話せなかったり英語が完璧に話せなくてもジェスチャーなどを使って伝えようとする姿勢が大切なことが分かった。それは、世宗高校との交流に限らず今後色々な国の人との交流の場でも必要だと感じた。
- 自分の探究で日本と韓国の違いについて質問などをする場合には直接聞ける貴重な機会でもあり、コミュニケーションの一貫にもなるので積極的に質問をして行った方がいいと思います。事前に質問を考えるとスムーズに話が進み英語での言い方も覚えておくともより楽になると思います。
- 3日目はゼミ別行動だったので主に自分の探究している内容について学ぶことができた。授業で探究をすすめていく上でネットで調べても出てこなかったことや日本と韓国との動物に対する価値観の違い、法律の違いなどが知れて今後の探究に繋がれようと思った。
- 1期生の先輩と、韓国語を教えてくださっていた先生と一緒に回った。事前学習で、ある程度学んでいたのになんとか話がわかってよかった。日本ではなかなか見れない、体験できないところに行って昔に起こったことがわかった。
- 延世大学で自分のプロブレムについての講義を受けれてよかった。これまで調べてきたことを、より深く詳しく説明して下さったのでこれからのグローバル探究に役立てていければと思う。
- 公正公平ゼミに一期生のパクさんがきてくれた。彼の現地の暮らしや軍隊についてもたくさん話をバスの中でしてくれたので勉強になったと思う。青瓦台やDMZ は歴史ある場所であり韓国に行っても行かないところだと先生たちもおっしゃっていたので貴重な経験ができた。
- ゼミごとに色々な場所に行った。韓服体験では実際に着てみてとても動きやすいし沢山の色や種類があってとても興味深かった。国立世界文字博物館では、沢山の異なる言語文字の発展を比較していて解説も見ながら考えを深めることができた。東大門ではあまり時間がなかったけど、色々なお店に行けた。ミーティングでは一日の振り返りをしっかりできた。

5.2 法隆寺国際高等学校海外研修

本校ではオーストラリアとドイツの姉妹校に、隔年で生徒を派遣しており、今年度はオーストラリアの姉妹校に派遣する。今回の派遣生の中には、昨年度ホストファミリーとして姉妹校生を受け入れた生徒もあり、本研修が国際交流のきっかけともなっている。

オーストラリア姉妹校海外研修

日程：令和7年3月11日～3月24日

対象：希望生徒より選抜15名

内容：自己紹介やホームステイ先での心構え、オーストラリアの基礎知識に関する事前研修と、英語のBrush Up講座を行い、安全かつ積極的に活動できるように準備を重ねた。事前研修のプログラムは下の表の通りである。

第1回	姉妹校派遣に向けての心構え、姿勢 海外研修での危機管理能力を高めるためのオリエンテーション
第2回	オーストラリアの地理と歴史、日本との関係に関する研修（地理歴史科の先生による講義）
第3回	15分間の英会話練習＋派遣中によく使う英語表現の習得 グループワークでお互いのことを知る活動
第4回	15分間の英会話練習＋派遣に向けての不安点、準備物等確認 グループワークを通じて派遣生同士が繋がる活動
第5回	15分間の英会話練習＋派遣に向けての目標設定 現地で生徒たちがホストファミリーに作る日本料理の作り方、英語での説明の仕方の確認
第6回	15分間の英会話練習＋言いにくい英語を日本語から簡単な日本語に言い換えてから、英語に翻訳する練習（日日翻訳）

滞在先では、オーストラリアの人々と積極的にコミュニケーションをとり、メルボルン郊外の自然豊かな環境の中で、様々な学習や体験活動をする予定である。学校における美術、工芸、料理やその他の授業体験、市内観光のほか、週末はホストファミリーとゆっくりと過ごせるよう日程が組まれている。

2025 HORYUJI INTERNATIONAL HIGH SCHOOL VISIT 《姉妹校での日程》

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
		12 1:30pm Horyuji Arrives	13 School Welcome Ceremony	14 ALL DAY Phillip Island	15 Day with Host Family	16 Day with Host Family
17 School Art Lesson Product Design Classes with Host Brother/Sister	18 ALL DAY City Experience & Eureka Skydeck	19 School Classes with Host Brother/Sister	20 School Cooking Classes with Hosts After School Sayonara Party	21 9:00/9:30 Horyuji Departs MLMC		

5.3 高取国際高等学校海外研修

オーストラリアアデレード海外研修

日程：令和6年7月23日～8月7日

場所：Hamilton Secondary College

参加生徒：1年4名、2年7名、3年2名 計13名

内容：新型コロナウイルス感染症の影響等で中断されていたが、6年ぶりの実施となった。中断期間中もオンラインによる交流は継続していたが、今回で3度目の訪問となった。ホームステイしながら現地交流校で語学、文化について研修した。

- ・1日目・・・関西国際空港出発後、ケアンズを経由してアデレードへ。
- ・2日目・・・ケアンズに到着後、国内線に乗り換えてアデレードに到着。空港では、Hamilton Secondary Collegeの先生方と対面した後バスで学校へ。日本とは違った街並みに驚きつつ、無事学校へと到着。その後ホストファミリーとの対面。
- ・3日目・・・オリエンテーションから始まり、まずは様々な施設を見学させていただく学校ツアーから。前日と違い外は少し肌寒いが、それを忘れさせるほどの立派な施設ばかり。特に宇宙に関する分野の施設が多く、火星での探索を体験出来る特別な部屋にも入ることが出来た。また料理を作っている様子や劇の授業等の見学。休憩後はオーストラリア全般について学ぶ時間。英語を使いながら地理を学ぶことができた。昼食後は待ちに待ったウェルカムセレモニー。ピアノ演奏を聞き、プレゼント交換をした後ダンス、学校紹介を行った。最後にはオーストラリアでのバディと対面。
- ・4日目・・・日本語を学んでいる生徒との交流から始まり、その後アデレード市内の散策へ。散策中は現地のパディも参加してくれており、より仲が深まった。
- ・5日目・・・午前中はアボリジニのアートについて学び、オリジナルのブーメランを作るためのデザインを考えた。休憩を挟んでからは、数学に関する講義。数学の専門用語に少し苦戦した様子であったが積極的に質問しながら乗り越えた。英語以外の教科について英語で学ぶといった貴重な経験ができた。
- ・6日目・・・6日目はspace day。まず始めに宇宙服を着た本格的な火星探査体験。岩などが敷き詰められた特別な部屋に入り放射線物質や鉄の探索、またそれを記録するといった係に分かれ管理棟からのミッションを達成していった。次の時間はパラシュートの落下実験を行った。この実験は火星に機体を安全に着陸させる方法を学ぶための実験で、様々な種類の材料を組み合わせ自作のパラシュートを作った。最後はプラネタリウムで宇宙に関する映像を視聴した。迫力満点の映像とともに宇宙の歴史について学んだ。この授業を通じて少しでも宇宙に興味を持ってもらえると嬉しいと先生は話されていた。
- ・7日目・・・後日行われる日本語文化の紹介に向けてのスライド作成をした。
- ・8日目・・・オーストラリア式の体育の授業を受けた後、デザインを考えていたアボリジニアートの1つであるブーメラ



ンのデッサンをした。このアートの特徴であるドット絵を上手く使いこなし、個性溢れる作品ができた。

- ・ 9日目・・・最初は日本語の授業を選択しているハミルトンの生徒に向けて日本文化についてのプレゼンを行った。発表後はオーストラリアで有名なボードゲームをし、その後科学に関する展示を見ることができるイベントに参加した。イベントでは空気砲を打ったり、e-sports を体験したりと最先端の技術を感じることができた。学校に戻ってからは野生自然公園への散策へ向けてオーストラリア固有の動物たちについて学んだ。
- ・ 10日目・・・授業の最初はホストファミリーへ感謝の手紙を英語で書いた。これまでのホストファミリーとの会話や思い出を振り返りながら各タイラスト付きの手紙を完成させた。昼食後は最後の講義を受け、これまでの振り返りをした。
- ・ 11日目・・・語学研修最終日、野生自然公園を見学した。コアラだけでなくカンガルーや数多くの鳥などオーストラリア固有の動物と触れあった。その後キャンプ場へと移動しお別れ会を開いていただいた。これまで共に行動してきたバディやホストファミリーの皆さんと過ごす最後の時間を楽しむことができた。
- ・ 12日目・・・いよいよ帰国日、写真を見比べると到着した時よりもどこか余裕を感じた。様々な経験をして自信をつけたようだ。これまで学んだことを日本での生活に活かしてほしい。

5.4 合同海外研修の企画・実施

拠点校・共同実施校の合同海外研修については、2026年度夏の実施を目指し、企画中である。本校のグローバル探究・グローバル探究基礎で最も大切にしていることは「問題を自分ごとにする（世界の問題と自分とはつながっている）」を意識することである。

中学1年生では、自分たちの「食」や「衣」が世界の問題とつながっていることを実感し、その問題を解決するためには、「食事をし、服を着て毎日を暮らしている」自分たちの行動が大切であることを知る。「食」の学びとして、「ボルネオ島のパーム油の問題」をテーマにしていることから、今回の合同海外研修では、目的地をボルネオ島とした。開校当初よりボルネオ島の学びで協力していただいている「認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン」の協力を得ながら企画を進めている。

目的は、アジア最大の熱帯雨林、生物多様性の宝庫である熱帯雨林を訪れ、熱帯雨林やそこに暮らす生き物たちのいのちを持続可能にすることの大切さを実感するとともに、その熱帯雨林が分断される大きな原因となっているパームプランテーションを見学し、私たちの日々の暮らし、食が関わっていることを学ぶことである。ルートや日程等ははまだ企画段階であるが、ボルネオ保全トラスト・ジャパンの現地スタッフにも協力していただき、ワークショップや振り返りの時間を大切にしたいスタディツアーにする予定である。

実際に担当者でボルネオ島の現地スタッフとオンラインでつながり、第1回企画会議も実施している。生徒の安全を確保しながら、どれだけ生徒が持続可能性を阻害する要因の当事者である（自分ごと）ことを実感し、「ドキッ」とする場面を作ることができ、日本では感じるができない生き物たちのいのちを感じることができるツアーになるよう、計画を進めていきたい。本校生徒も中学1年生から在籍する生徒はボルネオ島をテーマにした探究学習を行なっているが、高校1年生から入学する生徒や、共同実施校の生徒は深い学びをしていないため、事前学習もていねいに行なっていくことを予定している。

5.5 海外大学進学促進

5.5.1 実績

多くの海外大学は日本の大学よりも出願・合格・入学スケジュールが遅いため、今年の卒業生の大半はまだ希望する大学の決定を待っている段階である。しかし、すでに1人が中国の同済大学、1人が韓国の延世大学、一人がアメリカのイリノイ大学への合格通知を受け取っている。今年出願中の大学には、中国の復旦大学、台湾の国立台湾大学、韓国の西京大学、イタリアの Università degli Studi di Milano BicoccaとUniversità di Bologna、ハンガリーのEötvös Loránd University、マレーシアの Monash University、オーストラリアの Deakin University、アメリカの Minerva University と Stanford Universityがある。

大学名	国	性別	
Asia Pacific University (APU) アジアパシフィック大学	マレーシア	女	1 期生
INTI International Universityインティ国際大学	マレーシア	男	1 期生
Sunway University サンウェイ大学	マレーシア	女	1 期生
Humber College ハンバーカレッジ	カナダ	女	1 期生
University of Leuven ルーヴェン・カトリック大学	ベルギー	女	1 期生
Kapi'olani Community Collegeカピオラニココミュニティカレッジ	アメリカ	女	1 期生
Australian National University オーストラリアナショナルユニバーシティ	オーストラリア	女	1期生
The College of Wooster ウースター大学	アメリカ	女	2 期生
華東師範大学	中国	女	2期生
同済大学	中国	男	3期生
延世大学	韓国	女	3期生
イリノイ大学	アメリカ	男	3期生

5.5.2 海外大学進学者のレポート

現在、マレーシア、オーストラリア、カナダ、ベルギーなど海外に進学し、生活している本校の卒業生が、大学の休暇中に時折学校を訪れ、海外生活の様子を報告してくれた。彼らは選んだ学科にうまく対応し、学生寮やその他の宿泊施設を探したり、公的な事務手続きを処理したりする際に大学からサポートを受けている。トラブルと成功の両方に共通するテーマは、地元の学生であれ、同じ留学生であれ、友情を築き、維持することである。円安が進むにつれて、将来卒業する生徒たちは、ハンガリーやイタリアといった別の国を検討し始め、大学進学計画の一環として、学費だけでなく生活費も比較している。

以下は、卒業生の報告である。

卒業生A

私は現在、米国のオハイオ州にあるカレッジオブウースターという大学に通っています。生徒数が比較的少ないため生徒同士の理解を深めやすく、教授との距離も近い環境で日々勉学に励んでいます。アメリカのリベラルアーツカレッジに進学することを決めた理由は、文系と理系の分野を組み合わせることができる学問の柔軟性、そして多様な文化に触れることのできる環境で脳神経科学と言語について研究し、グローバルに活躍できる人材に成長したいと思ったからです。特にカレッジオブウースターは留学生が多く、自身の文化を紹介したいという思いを持った人や、他人への理解を深めたいという思いを持った人が多いため、毎日多様な文化経験が出来ていると感じます。例えばハロウィンの日には、宗教によってお祝いの仕方が違うことを踏まえてどのように友人と楽しむかを考えたり、11月の大統領選挙では様々な経験を持った生徒と意見を交換したり出来たので、とても良い学びだったと思います。

留学をして良かったことは大きく二つあります。一つ目は英語力の向上です。一学期の前半は特に大人数での会話が苦手だったものの、後半になるにつれて自信を持って発言ができるようになりました。また、自分がどのように言語力を上達させることができるのかという自己理解にも繋がり、他の言語を学ぶモチベーションにもなりました。二つ目は自立心の向上です。外国で暮らし英語で専門的な授業を受ける上で、私生活においても勉学においても常にわからないことが出てくるため、自ら助けを求めに行く姿勢が求められます。特に、これまで授業を受けて感じたことは、授業の内容が基礎的でありながら理解が難しいため、意欲的に質問をすることが重要だということです。例えば生物の授業でDNAを扱った際には、生物を学んだことのない生徒でもわかる内容でDNAの構造や働きを学びますが、二重螺旋構造になる理由の考察、といったように具体的な理由や事例を交えながら授業が進んでいきます。このように、これまでの知識に関係なく誰もが学びたいことを学べる授業であると同時に、常に疑問の解決に向かって取り組む必要があるので、自立心が鍛えられたと感じています。また授業によっては多くの課題が出るので、限られた時間を有効活用する大切さも学びました。

これまでの学びや成長を踏まえて、今後はより専門性のある授業を取ることで、そして大学のコミュニティを最大限に活用することに力を注いでいきたいと考えています。生徒の主催するイベントへの参加や言語を学ぶことのできるワークショップへの参加など、自分の興味を広げられる機会を活用して、学問と人間性ともにより一層成長していきたいです。

卒業生B

現在私はカナダのトロントで広告学とグラフィックデザインを学ぶカレッジに通っています。

デザインスキルだけではなく、広告として、デザインの観点から人にどのように伝わるかも一緒に考えるカリキュラムで、自分でこのブランドの広告を作るならどのようなアプローチをするか、など考えるのはとても新鮮で、興味深く授業を受けています。

高校生活の中で考えていた、人に伝えるための情報をどのように処理していくか、という疑問の答えを導き出していく授業が多いので、自分の望んでいた「人に届けるデザイン」を学ぶことができとても楽しく学びを増やす毎日を送っています。

日本に居てもきっと同じような学びを得る機会はないわけではないと思います。ですが、カナダの強みである

多文化共生の社会に実際に身を置くことで、今までは見えてこなかったアイデアや、日本という国の文化の大きさを感ずることができ、それだけでも海外進学を選んだ価値があるように感じています。

これからの夢などと大きな目標はあまり見えていませんが、様々な経験をしてきた私だからこそ得られる視点を見つけ、毎秒進化し成長していくデザイン業界の中で取り残されることのないよう学びの多い日々を過ごしていきたいと思っています。

卒業生C

現在マレーシアのinti international college でビジネスの勉強しています。マレーシアでは一年目、ファンデーションコースという基礎的なビジネス(統計、会計、ミクロ、マクロの入門)を終えたあと、degreeでの3年間があります。私はこれからマレーシアでイギリスのハートフィードシャーユニバーシティでdigital marketing and advertisingを勉強しようと思っています！マレーシアでは、デュアルディグリー制度、ツイニングプログラムというものがあります。これはマレーシアにしながら他国の大学を学ぶことができるというものです。マレーシアで勉強することで、現地より学費が安く同等のクオリティーで学ぶことができます。またマレーシアは多民族国家で多様な方々(主に中華、マレー、インド系)と出会えるだけでなく、世界からも集まるので英語力だけでなく多言語を学ぶことができます。私は実際マレーシアに来て、英語力だけでなく色んな文化や経験、また改めて日本の素晴らしさを知ることができました。日本の大学に通うことでたくさん楽しいことや、学ぶことができると思います。ただ、海外では全てが新しい経験であり自分自身の成長を感じることができると思います。海外への進学も素晴らしい選択だと思います。国際高校で学んだ事や身に付いた力を是非、後輩たちには世界で発揮していただきたいです。

5.5.3 海外進学セミナー(ISA)

第1学年海外進学希望者保護者対象説明会

日時 令和6年7月16日(火) 13時30分～15時00分
参加人数 生徒・保護者10組
内容 海外大学進学の仕組み、必要な資格、費用などについて

感想 アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスの大学制度の違い、日本の卒業スケジュールと比較した場合の海外での大学出願スケジュール、海外での安全性、外国で教育を受けた日本人の日本および海外でのキャリア展望などのトピックを網羅した説明の後、ISA代表の柴田陽子氏による質疑応答が行われた。海外生活への期待や経験が異なるさまざまなバックグラウンドを持つ家族が集まったため、セミナーではまだ話し合われていないような個別の回答が出ることもあった。

5.5.4 海外進学個別カウンセリング

1学期海外進学個別カウンセリング

日時 令和6年7月16日(火)
参加人数 生徒本人・保護者：9人（1年生4人、2年生2人、3年生3人）
内容 1学期の海外進学・グローバル進学に興味がある方へのサポート・相談

感想 多くの生徒が大学進学のために英圏諸国を検討していたため、ISA代表の井内千穂氏から専門的なアドバイスや利用可能な奨学金に関する情報を得ることができた。全体的に、参加した3年生は、大学出願の準備を整え、順調に進んでいた。

改善点 保護者なしで参加した生徒については、予算に関する知識不足が見られた。個別カウンセリングは三者面談の時間帯に行われるため、保護者の参加、あるいは生徒の経済的制約に対する認識を強く勧めたい。

2学期海外進学個別カウンセリング

日時 令和6年12月18日(水)
参加人数 生徒本人・保護者：10人（1年生6人、2年生1人、3年生3人）
内容 2学期の海外進学・グローバル進学に興味がある方へのサポート・相談

感想 韓国、フランス、オーストラリア、中国、イタリア、アイルランド、アメリカなど、さまざまな国の生徒から関心が寄せられた。中には2回目の参加となる1年生もあり、海外大学進学へのモチベーションの高さがうかがえた。

改善点 多くの生徒が、各国の全額奨学金に関する情報に興味を示していたが、残念ながら競争率が高く、すべての生徒が利用できるわけではない。また、2年生の参加者が少なかったことは、2年生が本格的な情報収集に適した時期であることを考えると、残念であった。

5.5.5 笹川平和財団奨学金説明会

海外大学進学に関心のある生徒に対して、今年度からはじめて笹川平和財団のご協力を得て、校内で奨学金の説明会を開催することができた。
奨学金制度の説明だけでなく、実際にイギリスの大学に通っておられた職員の方から、イギリスの学生生活に関するお話をいただくことで、より海外大学進学を身近に感じる機会となった。

日時 7月16日15時～16時
対象 海外大学進学に関心のある中高生及びその保護者 23名
場所 奈良県立国際高等学校
講師 公益財団法人笹川平和財団の職員の方
内容
・奨学金制度の説明
・イギリスの大学制度、学生生活に関する情報
・質疑応答



柳井スカラーズキャラバンにも本校生徒が参加した

日時 7月15日13時半～
場所 奈良女子大学附属中等教育学校
対象 県内関係高の中高生徒と保護者
主催 公益財団法人柳井正財団

5.5.6 「留学キャラバン隊 in 奈良」（留学フェア）

日時：令和6年7月19日（金）

場所：奈良県立国際高等学校

内容：海外大学進学生によるプレゼンテーション、ワークショップ
留学斡旋業者によるプレゼンテーション、個別相談

参加者：中学生、高校生、保護者、教職員

海外大学進学や留学に関する情報を提供するだけでなく、自己分析をし、自分で進路を切り拓いていくための一助とすることを目的に開催した。中学生、高校生、生徒の保護者18名が参加した。

高校卒業後、カナダ、アメリカ、イギリス、エストニアの大学に進学し現在も在籍中の学生により、大学や現地での生活の様子などが生き生きと語られた。参加者との対話を交えながら、参加者が自分の興味・関心を分析し、自分自身と向き合うことができるようなワークショップも行われた。実際に海外進学した学生も、悩みや葛藤を抱えながら自分と向き合った過程が共有され、参加者にとって、海外進学に限らず、高校卒業後どのように自分の人生を切り拓いていくかを考えることができる時間となった。

また、留学斡旋業者（AFS、EIL）による留学情報の提供や個別相談会も同時開催し、中学生や保護者が熱心に質問や相談する姿も見られた。

5.5.7 韓国留学セミナー

実施日：2024年12月19日(木)13:00～16:30

内容： 奈良韓国教育院主催、国立国際教育院協力により、将来、韓国に留学を考えている奈良県内の高校生(本校生は中学生も含む)を対象に実施した。最新の韓国留学についての全般的な説明のあと、韓国人留学生として現在奈良女子大学に在籍している方を講師にお招きしてセミナーを実施した。また、現高校3年生で、韓国の大学進学を決定した者から、受験勉強のノウハウや韓国の大学の研究方法や選択するにあたっての注意点等々を、パワーポイントによる詳しい説明が行われた。

参加校： 国際中学校、国際高等学校、奈良県立大学附属高等学校、法隆寺国際高等学校、西和清陵高等学校、奈良北高等学校、高取国際



※ 参加者に対しては、セミナー後に個別相談も行われた。大学進学に必要な情報だけでなく、韓国での就職に関する情報や、奨学金制度などのサポート情報に関する内容等、質問内容も多岐にわたるものであった。

5.6 海外留学の促進

5.6.1 実績

令和6年度は、10名の長期留学を希望する生徒を支援した。このうち、7名は在学留学、3名は休学留学で、1名が高校1年生、6名が高校2年生、2名が高校3年生であった。留学先は多岐にわたり、内訳は以下の表の通りである。

ESD部では、留学を希望する生徒一人ひとりに対して、必要な情報を提供し、疑問を解消するための支援を行っている。特に重要なのは、留学の斡旋を行わないという方針に基づき、生徒自身が留学エージェントを選び、手続きを進めるためのサポートをすることとしている。この方法により、生徒は自分の意思で留学先を決定し、より積極的に自分の将来を考える力を養うことができる。

また、年度初めには高校1年生を対象に、留学説明会を実施した。この説明会では、留学の目的や意義、留学先の選び方、必要な準備などについて詳しく説明し、生徒にとって留学がどれほど重要な経験であるかを伝える機会とした。説明会終了後には質疑応答の時間も設け、生徒たちが抱える不安や疑問を解消した。これにより、多くの生徒が留学に対する意欲を高め、積極的に情報を収集するようになった。

留学中の生徒については、定期的にメールで連絡を取り合い、報告書の提出を求めたり、留学生活で直面している問題についてアドバイスを行ったりした。留学先での生活が順調に進んでいるか、学業や生活面で困っていることはないかを確認し、必要に応じてサポートを行った。これにより、留学中の生徒が安心して生活できる環境を提供し、問題があれば早期に解決することができた。

次年度以降に向けては、さらなる留学挑戦者を育成するための取り組みが必要となっている。留学に対する関心を高め、積極的に留学を希望する生徒を増やすために、今後も引き続き情報提供やサポート体制の強化を行うことが求められる。例えば、留学に成功した先輩たちによる体験談を聞く会を開催したり、留学先で得た経験を学校全体で共有する機会を設けたりすることで、留学の魅力を実感できる場を提供することが重要と考えている。また、留学を希望する生徒に対して、具体的なアドバイスや実際の経験を基にしたサポートを行うことで、留学への不安を減らし、積極的な挑戦を促進していきたいと考えている。

今後も、生徒一人ひとりが自分の目標に向かって挑戦し、成長できるよう、留学支援の体制をさらに充実させていく。

年度	人数	派遣先	斡旋機関	在学／休学
令和6年度	10名	アメリカ4 ハンガリー1 フランス1 インドネシア1 デンマーク1 カナダ1 中国1	AFS3 ISA1 YFU2 WYS Arc UNITED STUDIES JACC 奈良西ロータリー	在学7／休学3

5.6.2 留学者のレポート

この留学期間で自分自身が成長できたと思うこと

- 「初対面の人に日本のことや自分を紹介する際の英語力が向上し、場所がわからない時や何をすればよいか迷った時にすぐに人に聞けるようになった。どんなことにも挑戦したり参加してみる意欲も高まった（例: 「やりたい？」と聞かれた時に）。」
- 「友達やホストファミリーとのコミュニケーションがスムーズになり、リスニング力も向上した。レジでの会計も助けなしでできるようになった。」
- 「自立できたのが一番成長したと思います。主な理由としてはホストファミリーが基本的に家にいることが少なく自分でなんとかしていけない場面が多いからです。それに伴い問題解決能力も向上したと思います。料理をするとき、限られた食材で何を作るか毎日頭をひねっているうちに自分でなんとなくつくってみた料理があまり期待した味ではないときなぜそうなったのか自分で見返し次に作る時はもっと塩を増やすとか、今度買い物行くときにこの調味料を買うとかみたいな感じで毎日成長していると感じています。英語はもちろん上達していると感じました。アメリカにも方言はいくつか存在しているみたいで、僕がいるオハイオ州では炭酸飲料のことをpopというみたいです。このような方言が多々ある中僕は毎日方言と闘いながら留学生活を楽しんでいます。」
- 「英語力が向上し、日常会話がスムーズになった（例: 迎える時間や送る場所を伝える）。疑問形で積極的に質問できるようになり、挑戦する力も向上（US Historyの授業やreadingで自分の力で取り組む意欲が増した）。環境の変化にも柔軟に対応でき、問題解決のために自分から行動する力が身についた（例: US Historyで答えが出ないときに質問、Yearbookでわからないことを先輩に聞く、授業の課題が終わらなかった時に先生に確認する）」
- 「新たな趣味を見つけ、自立できるようになり、アメリカの文化への理解も深まった。自己管理もできるようになった。」

5.6.3 留学体験発表会

日程：10月30日（水曜日）

時間：8：50～9：35

対象：中学校2年生・高校1年生・高校3年生

本校では、中学2年生、高校1年生、高校3年生を対象に、海外留学を経験した生徒による発表会を実施した。本発表会は、留学を通じて得た経験や学びを共有することで、参加者が今後の進路や学校生活について考える機会とすることを目的としている。特に高校3年生にとっては、同学年の生徒の挑戦を知り、自らの過ごし方を見つめ直すきっかけとなることを期待した。

発表者は、高校3年生の3名で、それぞれフランスとイタリアに約1年間の高校留学を経験した生徒であった。体育館にて行われた発表では、彼らが留学中に経験した学校生活、現地の文化との違い、言語の壁などの困難について具体的なエピソードを交えながら語られた。フランス留学をした生徒は、現地の授業スタイルやディスカッションの多さに驚いたこと、また、ホストファミリーとの関係を築くことの大切さについて話した。一方、イタリア留学を経験した生徒は、食文化の違いや、日本とは異なる友人関係の築き方についての気づきを共有した。

さらに、3名はそれぞれの留学を通して得た学びについても発表した。異文化の中で生活することで、視野が広がり、自分の意見をしっかりと伝える力が身についたことや、困難を乗り越えることで精神的に成長できたことを強調していた。また、語学力の向上だけでなく、日本について改めて考える機会になったことも印象的なポイントとして語られた。

発表会に参加した生徒たちは、非常に興味を持って話を聞いていた。発表後の質疑応答の時間には、「現地の授業についていくためにどのような努力をしたのか」「日本と比べて驚いた文化の違いは何か」「留学を決めたきっかけ」など、多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われた。中には「自分も留学してみたい」「もっと英語を勉強しようと思った」といった声も聞かれ、発表が生徒にとって刺激となったことがうかがえた。

今回の発表会を通じて、留学を経験した先輩の話を直接聞くことで、参加者一人ひとりが自分の将来について考えるきっかけを得ることができた。特に高校3年生にとっては、同級生が海外で挑戦してきた姿を知ること、自らのこれからの過ごし方を見つめ直す良い機会となったのではないかと考えられる環境を整えていきたい。

6. インバウンドの充実

6.1 外国人生徒の受け入れ促進

6.1.1 帰国特例措置・選抜実績

令和6年度帰国特例措置・選抜実績

学校名	学科・コース	人数
国際高等学校	国際科plus	2名
法隆寺国際高等学校	総合英語	5名
高取国際高等学校	国際コミュニケーション	3名
計		10名

6.2 留学生の受け入れ促進

6.2.1 留学生受け入れ実績

法隆寺国際高等学校（共同実施校）

- ・スイス 1名（2024.4.8～2025.2.2）
- ・ドイツ 15名（2024.10.12～10.20）

高取国際高等学校（共同実施校）

- ・オーストラリア 1名（2024.9.2～11.30）
- ・ドイツ 1名（2024.9.2～2025.1.17）
- ・イタリア 1名（2024.9.2～2025.7）

国際高等学校（拠点校）

- ・ミャンマー 1名（11/2023～3/2025）
- ・イタリア 1名（9/2023～7/2024）
- ・ホンジュラス 1名（9/2023～7/2024）
- ・メキシコ 1名（4/2024～1/2025）
- ・アメリカ 2名（6/2024～7/2024 9/2024～12/2025）
- ・ブラジル 1名（9/2024～7/2025）
- ・中国 1名（9/2024～7/2025）

国際中学校・高等学校では令和5年度～令和6年度、8人の留学生を迎えました。8人のうち2人は1～3ヶ月の短期留学で来日した。留学生は7つの国と4つの大陸から来ており、2人の生徒は高校2年生から3年生に進級した。その他の6人の留学生は1年生と2年生にそれぞれ所属した。国際学校として、世界についての視野を広げるため、また互いに母国について交流できるように、海外からの生徒を受け入れた。そのため、年間を通して校内外で交流イベントを企画した。

学校生活

留学生はそれぞれホームルームに所属し、ほとんどの時間を他の生徒と一緒に授業を受けて過ごした。物理、数学、歴史など多くの授業は日本語で行われましたが、留学生は自分の最善を尽くして授業に参加した。留学生たちは日本の文化と言語を学ぶために日本に来ているので、日本語だけで行われる授業は、まさにフルイマージョンでの学びとなった。留学生が日本に到着した時期によっては、学校のイベントにも参加することができた。文化祭では、1年生と一緒にクラスのテーマを決めて部屋を作った。2年生では、舞台で劇を行った。3年生は、食べ物や飲み物を提供する屋台を作った。さらに、多くの留学生が参加した大きなイベントの一つは、10月に行われる運動会だった。留学生たちはクラスメートと一緒に競技に参加し、クラスの勝利に貢献した。こうしたイベン

トを通じて、留学生はクラス内でのコミュニケーションを深め、友情を育むことができた。この友情が留学生が母国に帰った後も続き、長く続いていくことを願っている。

また、通常の授業とは別に週に2回程度、日本語の授業を受けることができた。留学生の日本語学習レベルに合わせて、基本的なひらがなから難しい文法や漢字まで学んだ。1～2人の少人数で行う時間と留学生全員が一度に授業を受ける時間がある。留学生たちは一緒に日本語を学ぶことで、お互いにコミュニケーションをとり、交換留学の経験を共有する機会も得られた。日中はなかなか顔を合わせることができないこともあるため、この時間は貴重な交流の場となっている。



イベント

一年を通して、留学生たちは学校内外で開催される様々な国際交流イベントに参加した。これらのイベントは、生徒たちに教室外でお互いの国について学び、交流する機会を提供するために計画された。今年は、高校と中学校のホームルームの時間を使って交流を実施した。これらの交流は、留学生の生活を理解し、彼らと直接会う機会を生徒たちに提供した。

また、国際交流イベントは毎学期1回、計3回にわたり放課後に開催された。それぞれのイベントには異なるテーマがあり、主に留学生と国際理解委員会の生徒たちがリーダーとなって進行した。

1学期には、イタリアからの留学生によるイタリアンビンゴを楽しみ、ホンジュラスとメキシコからの留学生によるサルサダンスを練習した。2学期には、初めての料理イベントを開催し、生徒たちは各留学生の出身地の食材でトッピングをしたお好み焼きを作った。3学期には、正月に遊ぶ伝統的な日本のカードゲーム「カルタ」でクイズを楽しんだ。留学生たちは自分の国について話し、参加した生徒たちと互いに質問をした。



地域の公民館で開かれる「英語サロン」という交流にも参加した。このイベントは年に1回開催され、地域の人々に海外から来た留学生たちと交流する機会を提供した。また、このイベントでは、地域の生活をより快適にするための議論も行われた。留学生と国際理解委員会の生徒たちがイベントを主導し、グループに分かれて留学生が母国の伝統的な文化を参加者とともに楽しむ際には、国際理解委員会の生徒たちが各グループのサポート役となった。イベントの後半では、全員で地域をより住みやすくする方法について議論し、留学生の視点から出された日本での生活の難しさについても解決策を話し合った。

計画と組織

年間のスケジュールやイベントの計画、およびクラス担任や留学生受け入れ団体との連絡は、主に学校のESD部が担当した。日々のスケジュール変更などの連絡は、クラス担任や留学生コーディネーターが行った。イベントのポスターや資料、スライドを作成する際には、留学生や国際理解委員会の生徒たちと共に準備することもあった。年間を通して、コーディネーターは生徒たちの授業での進捗を追いかけるだけでなく、日本の学校での生活にどのように適応しているかを把握するよう心がけた。コーディネーターの主な役割は、留学生が日本に来る前に設定した目標を達成し、留学を通じて成長するためにサポートをすることだ。本校の生徒も留学生たちもよりオープンマインドになり、友達を作り、異文化を受け入れられるようになっていくのが目標であり、新しい環境に置かれたことで、留学生たちが自分自身に挑戦することができていると実感した。

受け入れ生徒一覧 (2024~2025)			
1	国	団体	期間
2	Myanmar	AFS	11/2023~3/2025
3	Italy	AFS	9/2023~7/2024
4	Honduras	AFS	9/2023~7/2024
5	Mexico	AFS	4/2024~1/2025
6	America	YFU	6/2024~7/2024
7	Brazil	Rotary Youth Organization	9/2024~7/2025
8	America	YFU	9/2024~12/2025
9	China	AFS	9/2024~7/2025

イベント	日付
高校ホームルーム交流	6/12/2024
中学校ホームルーム交流	6/19/2024
1学期文化校座	6/19/2024
公民館交流会 英語サロン	10/20/2024
2学期文化校座	12/11/2024
留学生スピーチ大会	12/14/2024
奈良国際会議	12/24~26/2024
3学期文化校座	1/29/2025

6.2.2 留学生受け入れ連絡協議会

各校独自で進めている留学生の受け入れに関して、情報交換や事例共有の機会とすべく、連絡協議会の立ち上げを本事業で計画している。今年度は、「高校生国際会議 in NARA」への県内留学生の参加を通じて、留学生同士の交流、留学生と県内生徒の交流の推進をはかるとともに、各留学生の受け入れ団体と管理機関との連携強化を促進した。

次年度以降、各校の受け入れ担当教員の連絡会を立ち上げ、教員の負担にならない範囲でのオンラインによる情報共有会とすることを予定している。

6.2.3 県内留学生日本語体験発表会

奈良県高等学校国際教育研究協議会は1969（昭和44）年に発足した会である。その目的は、奈良県の国際教育の研究を行い、青少年に広く国際的視野を培うと共に、国際社会に対する正しい理解と知識の普及を図ることである。今日に至るまで50年以上活動が続けており、2024（令和6）年度時点では県内の中等教育学校・高等学校計43校が会員校となっている。

毎年12月に本協議会主催で「奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」を開催している。奈良県内の高等学校、大学等に留学中の留学生・研修生に、日本での体験を日本語で話してもらい、日本語学習の成果を発表する機会を与えている。今年度の概要は以下の通りである。

第33回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会

主催：奈良県高等学校国際教育研究協議会

後援：奈良県教育委員会、独立行政法人国際協力機構関西センター

日時：令和6年12月14日（土）13：00～16：00

会場：奈良県立郡山高等学校 講堂

発表者：7名（奈良北高1名、高取国際高1名、国際高4名、天理大学1名）

発表者の出身国・地域：台湾、イタリア、メキシコ、中国、ブラジル、アメリカ

審査員：天理大学日本語教授、奈良県総務部知事公室国際課、奈良県教育委員会指導主事、本協議会長、副会長

【進行概要】

司会進行は奈良県立国際高等学校の生徒2名が務めた。

開会行事は、会長挨拶、奈良県国際課長挨拶、教育委員会挨拶と続き、諸連絡の後発表に入った。7名の発表の後、審査員は審査へ、発表者は交流会に参加した。交流会では、奈良県立国際高等学校の徳竹教諭主導の下、折り紙を使って様々な作品作りに挑戦した。

交流会後、審査委員長の天理大学 菊池教授より講評をいただき、審査発表・表彰式に移った。閉会式では本協議会副会長が挨拶をし、閉会した。

表彰者は以下の通りである

- 奈良県高等学校国際教育研究協議会長賞
奈良県立国際高等学校留学生 丁 姝含（中国） 『楽しい日本生活』
- JICA関西賞
奈良県立国際高等学校留学生 エリア ナタリア ソサ ブリト 『日本語の学び方』



6.2.4 拠点校での留学生受け入れ

a 拠点校での留学生受け入れ国際理解講座

今年は、毎学期に1回ずつ、計3回の国際交流イベントを開催しました。この交流イベントは、学校の生徒たちに留学生の母国について学び、外国語でコミュニケーションを取る機会を提供することを目的としています。留学生は毎日日本の生徒たちと一緒に授業を受けていますが、忙しい学校生活の中では深く話す機会や、文化を楽しみながら学ぶ機会が十分ではないように思います。また、留学生は中学校のクラスには参加していないため、この交流イベントは中・高の全生徒が自分の文化以外の文化について学び、活動に参加する機会を提供します。今年は、生徒たちの学習スタイルや興味に合わせて、さまざまな形で交流を行うことができました。

イベント開催に向け、どのような内容が良いかを留学生と話し合い、各自が母国の紹介や文化についてのプレゼンテーションを準備したり、活動を企画しました。放課後にはリハーサルの時間を設け、課題や問題点について改善を行いました。各クラスにイベント宣伝のポスターを掲示し、参加希望者の募集にはGoogleフォームを活用しました。テスト前は参加者が少ないなど、当日のスケジュールや生徒たちの興味によって参加人数に増減がありました。

1学期 6/19/2024 イタリアビンゴ、ダンス

生徒たちは初めて体験するイタリアンビンゴで景品をもらって楽しい時間を過ごしました。また、メキシコとホンジュラスからの留学生たちは、サルサダンスの踊り方を教えてくれました。



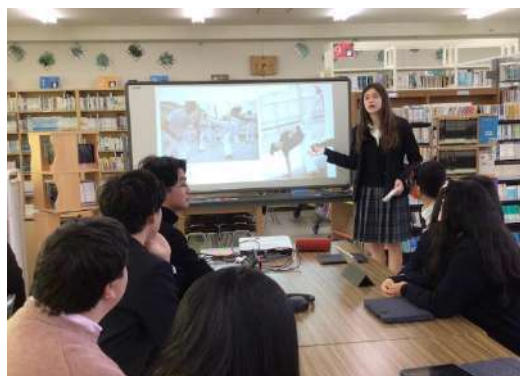
2学期 12/11/2024 お好み焼きを作ろう！

生徒たちは、留学生たちの母国の食材を使ってお好み焼きを作りました。ワカモレ（アボカド）ディップ、麻辣醬（中国風チリソース）、ブラジルのフルーツペッパーソース、そしてチーズとハムを使ってお好み焼きに風味を加えました。



3学期 1/29/2025 留学生カルタ大会

まず、各留学生が母国についてのプレゼンテーションを行った後、内容に関するクイズがカルタ形式で出題されました。参加生徒たちはクイズの答えが書かれた札を取って獲得した札の枚数を競いました。



b 留学生日本語体験発表会

留学生のスピーチコンテストが2024年12月14日に奈良県立大和郡山高等学校で開催されました。このスピーチコンテストは毎年行われ、奈良県内の高校や大学に通う留学生が参加できるイベントです。これまで毎年、私たちの学校からも留学生が参加し、日本での滞在中に体験した日本語や日本文化について発表してきました。今年も、ブラジル、アメリカ、中国、メキシコからの4名の留学生が参加しました。

準備として、私は帰国生徒・外国人生徒支援員の先生と一緒に、留学生たちに英語または日本語で自分の体験に関するスピーチ原稿を作成させました。中には日本語でスピーチ原稿を作成することに挑戦した留学生もいました。スピーチ原稿の下書きが完成すると、より留学生自身の思いが反映されるように編集しました。その後、放課後に週2～3回の練習スケジュールを設定しました。初めは原稿を日本語で読むのもやっとだった留学生たちも、イベント前日までにはスピーチを暗記し、自分のものとして仲間の前で発表できるようになりました。

イベント当日、留学生たちはステージに立ち、文化や習慣の違いを乗り越え、留学中に得た日本での体験について自分の言葉で話すことができました。母国語ではなく、日本で学び始めたばかりの日本語でスピーチを行うことで、日本語を学ぶ理由を実感し、留学生活において達成感を得ることができました。今回留学生2名が、スピーチを暗記し、見事に発表したことが評価され、賞を受賞しました。



6.3 国際交流

6.3.1 拠点校における国際交流

a.概要

～高校～

昨年から継続の海外7校との定期的なオンライン交流を世界の言語クラス及びEAPⅡクラスで、放課後や授業時間を使い実施。その他、Youtubeを使用したビデオ投稿、クリスマスカードや年賀状、お土産の交換などの非同期型の交流も盛んに行い、一年を通じて様々な交流を行えた。交流校のうち4校が来日、ドイツCJDは学校休暇中のため校外にて本校生徒と観光交流、日本メキシコ学院、サンテレーズ高校は体験入学とホームステイを受け入れた。

更に、世宗国際高校の歴史科教員からの依頼により、本校希望生徒と韓日相互の移民についてや、異文化共存をテーマとした探求活動プロジェクトを放課後2回のオンラインと対面にて実施。本校生徒達からは気づきの多い良い交流会が行えたとのフィードバックがあった。

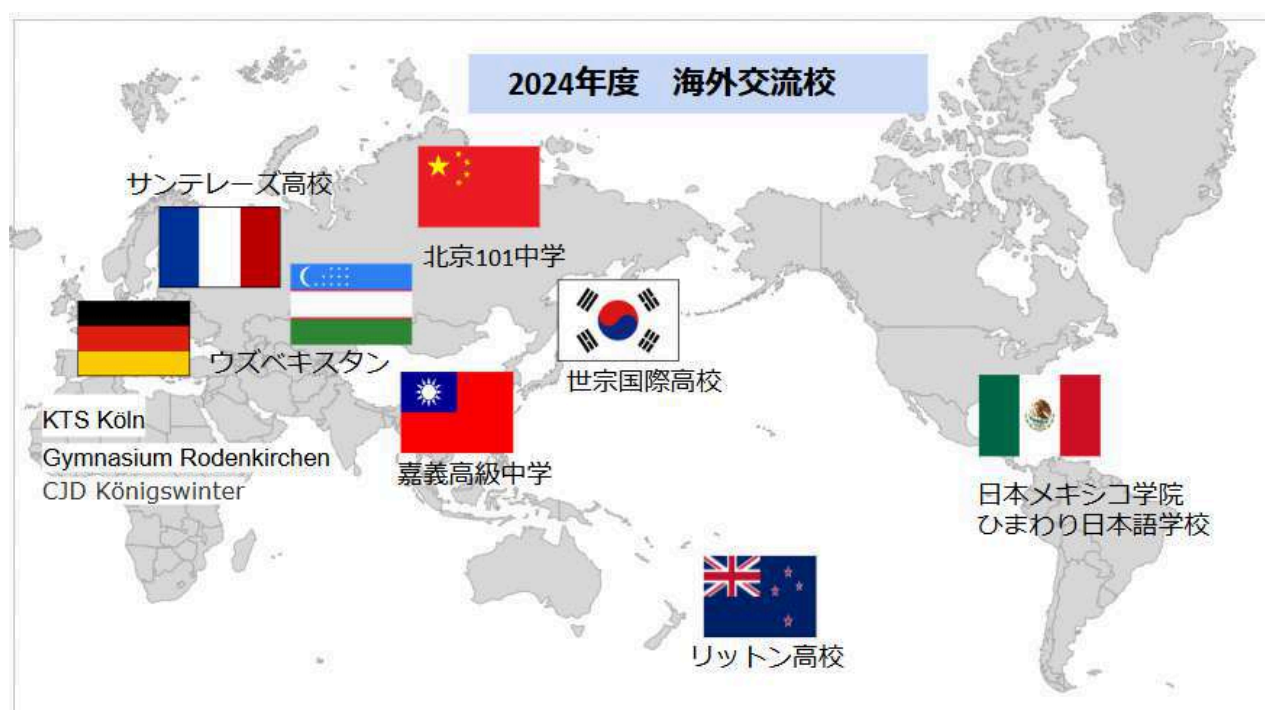
定期交流以外にも、奈良韓国教育院にご協力頂き、韓国文化を体験できる講座も行い異国の食文化を実体験する機会を設けた。

～中学～

ウズベキスタンとオンライン交流を行い、画面越しではあったが異文化に触れ、考える学びの機会ができた。

また、中国北京101中学の半日体験入学受け入れを行い、簡単な中国語を学ぶなどの文化交流も行う事ができた。

<2024年度交流校>



スペイン語クラス	⇒	メキシコ	日本メキシコ学院、ひまわり日本語学校
中国語クラス	⇒	台湾	嘉義高級中学
フランス語クラス	⇒	フランス	サンテレーズ高校
ドイツ語クラス	⇒	ドイツ	KTS Köln／CJD Königswinter／Gymnasium Rodenkirchen
韓国語クラス	⇒	韓国	世宗国際高等学校
EAPⅡクラス	⇒	NZ	リットン高校
国際中学生	⇒	ウズベキスタン	日本語を勉強する中学生

国際中学生 ⇒ 中国 北京101中学校

<ZOOMオンライン交流>

スペイン語クラス	3年生	放課後	日本メキシコ学院	1回
	2年生	授業時間内	ひまわり日本語学校	2回
ドイツ語クラス	2,3年生	放課後	ドイツKTS高校	1回
中国語クラス	2,3年生	放課後	嘉義高級中学	2回
フランス語クラス	2,3年生	放課後	サンテレーズ高校	2回
韓国語クラス	2,3年生	授業時間内	世宗国際高校	3回
EAPⅡクラス		授業時間内	リットン高校	16回
高校2年生希望者3名		放課後	世宗国際高校歴史科生徒	2回
中学生		授業内	ウズベキスタン	1回

<非同期型交流>

ドイツ語クラス	ビデオレター、コメントの交換、郵送にてお土産交換
フランス語クラス	Padletにてクリスマスカードの交換
EAPⅡクラス	自己紹介動画の交換

<対面交流>

～高校生～

サンテレーズ高校（生徒21名／教員2名）	2024年10月来校 3日間体験学習(ホームステイ2泊)
ドイツ CJD校（生徒6名／教員1名）	2024年4月春休み期間中に奈良公園にて国際高校生徒10名、教員と交流
日本メキシコ学院（生徒16名／教員3名）	2024年6月来校 5日体験学習(ホームステイ5泊)
世宗国際高校（生徒10名／教員1名）	2024年9月来校 午後半日体験入学及び交流中の生徒3名と共同学習

～中学生～

中国北京101中学（生徒32名／教員2名）	2025年1月来校 午前半日 国際中学1,2年生と交流
-----------------------	-----------------------------

<姉妹校提携>

台湾 嘉義高級中学が12月開催の高校生国際会議に参加された際に校長先生も来日され、姉妹校提携 調印式を行った。今後も両校協力のもと生徒達にとって学びの深い体験を提供できるように更なる交流を行っていく予定。